

有限会社五日市青果

八戸貨物駅から 春掘りの長芋を鉄 道輸送

青森県三沢市の有限会社五日市青果では、手放されたり貸し出される農地と農家の人材を活かし農業生産法人として農業経営に取り組んでいます。農地(約40ha)、選果場、定温倉庫、加工場などを完備し営農から加工までを行い、契約農家から仕入れた大根、長芋、ごぼうや八戸・十和田市場のせりで落とした農産物を、定温輸送ができるJOTのURコンテナを活用して鉄道輸送しています。

五日市隆代表取締役社長は「中規模の市場にちょうどよい出荷単位が、鉄道コンテナの5tサイズです。前日に市場からオーダーが入り、受注が確定するのは発送する当日です。そこから利用運送事業者の八戸運輸倉庫㈱にコンテナ集荷の依頼をしますが、確実に輸送枠を取ってもらえるので、鉄道輸送には信頼感をもって」と話しました。

URコンテナには大根なら330ケース、長芋なら340~350ケースを積み込んで八戸貨物駅から九州方面などへ毎日発送があります。

「輸送手段をトラックから鉄道コンテナへと切り替えて十数年になります。以前は大根、ニンジンの収穫が重なる最盛期の6~7

月に、1日に12個発送したことがありました。その頃は選果場も出荷場も、毎日コンテナと作業する人でいっぱいでしたね」と当時を振り返りました。ここ2、3年は景気の動向や各種規制の厳格化、着側の配達時間など様々な要因が重なり、鉄道コンテナの利用個数にも影響が出ています。「機能的に優れ、使い慣れたURコンテナで鉄道輸送ができれば一番いいと考えています。対策はないでしょうか」と五日市社長は解決策を探っています。

今回取材した長芋は、農機具の改良により機械化が進み、安定した収穫量が見込めるようになった農産品です。家庭用のほかに加工用として需要が高まり、外食産業やコンビニ弁当の「とろろそば」などが商品化され、また、冷凍のすり下ろした長芋が冷凍食品売り場で売られるようになりました。

滋養強壮や健康維持など栄養的にも優れていて、今では一年を通して手に入る食材です。通年の出荷には、秋の収穫だけではなく、土の中でひと冬を越して甘みが増す春まで待つ収穫する春掘りを行って、需要に応じています。



箱入り長芋



JOTのURコンテナ



五日市社長



URコンテナで各地市場や 食品メーカーへ



長芋の頭が1列に続く

今年は10年ぶりの寒波と豪雪の影響で春の農作業が2週間ほど遅れました。5月初旬、五日市青果の長芋畑では、3台のトラクターが収穫の真っ最中でした。青森県の太平洋側一帯(上十三地域)は根菜に適した土壌であり、大根、ニンジン、ごぼうなどの生産農家が多く、あちこちの畑で種蒔きが行われていました。

広い畑の中で目印になるのは、土地から10cmほど頭を出している細い長芋。その両脇からえぐるようにして土を掘り起こし進む収穫機械。後ろには、溝に入って土の中から長芋を掘り出す人、大きさ別に分ける人、土を払う人、運搬用トラクターまで芋を運ぶ人と続きます。そのまた後ろには、掘り起こされた土を元通りに埋めるトラクターが進んでいきます。一つの畝(70m前後)の収穫が終わるのには30分ほどかかります。次の畝の土をならして往復したトラクターの跡には、また目印の長芋が点々と現れて芋掘りが始まる、という具合に進んでいきました。



収穫した長芋



トラクターと人の共同作業で収穫が進む

五日市青果では収穫した長芋を土が付いたまま定温倉庫で保存します。出荷時には土を洗い落としサイズ別におが屑入りの箱に詰める消費者向け、おが屑なしで箱に詰める加工用、皮を剥いて1次加工を行ったものなど、用途別に関西から九州の市場、関東の食品加工メーカーなどへ鉄道輸送します。



定温倉庫で保存



URコンテナで八戸貨物駅へ集荷



コンテナ車に積み込む

貨物駅と利用運送事業者

八戸貨物駅は、三菱製紙(株)八戸工場から出荷する紙輸送のための空コンテナ供給、主要発送品目の農産品を輸送するURコンテナ取扱駅としての役割を持っています。

農家では通年で切れ目なく出荷できるように栽培計画を立てるので、夏の高温や冬の凍結に左右されず輸送できるURコンテナの確保が、重要になります。

「JOT青森営業所と調整しながら、繁忙期はもちろん通常からURコンテナを準備していつでも対応できるようにしています」と営業所長を兼ねるの佐々木耕次駅長は話しました。

八戸運輸倉庫(株)八戸貨物営業所の渡辺亮さんは「発送当日の依頼でも、コンテナ集荷の手配から輸送枠の確保まで、駅フロントと協力して行います。IT-FRENSの自動枠調整で到着日に余裕のある貨物の調整をしたり、空コンテナ回送の枠を土・日の列車に回したり、他の利用運送事業者と連絡を取りながら、積み残しが出ないように進めます」と話しました。

「駅フロントと利用運送事業者が一緒になってルート検討や新たな提案などを話し合えるように、日頃から良好な関係構築に努めています」と佐々木駅長は話しました。



佐々木駅長

渡辺さん

使用されるURコンテナ

